

第6節 高校3年生

生き方を探るⅡ

加 藤 直 志・佐 藤 俊 樹
鈴 木 喜 晴・大 林 直 美
浅 井 希 和・西 川 陽 子

【抄録】 中・高の6年間を通して行ってきた「総合人間科」の集大成にあたる学習である。「生き方を探るⅡ」という大テーマのもと、各自でどのような進路に進むべきかを掘り下げるという学習を行った。進路系統別に6つのグループに分けることで、協同学習の要素を盛り込みながらも、個人研究の形をとった。大学や企業などを各自で訪問し、専門家から詳しいお話を伺い、卒業論文（研究集録）にまとめさせた。

【キーワード】 進路指導 生き方 フィールドワーク キャリア教育 総合的な学習の時間

1. 目標

高校3年生のテーマは「生き方を探るⅡ」である。高校3年生は、進路選択を目前に控えた学年である。どのような学部・学科を選択するのか、あるいは進学以外の進路をとるのかは、大変重要な問題である。しかしながら、主体的な進路選択ができず、偏差値のみを基準として進路を決めてしまった結果、大学等に進学した後で目標を見失って不適応を起こしたり、大学での学びへの接続がうまくいかないといった例も残念ながら存在する。高大連携講座などで、大学教員の方とお会いすると、そのようなお話を伺うことがしばしばある。

高校3年生の総合人間科では、そのような進路指導への反省から、生徒が自己形成の過程を振り返り、現在の興味関心を確認することにより、主体的に生き方を選択することができる力を育てている。また、進路問題を個人の問題とはせず、系統別グループ内で検討するといった協同的なプロセスを用いることで、自分の興味関心のある分野について多角的に検討するチャンスを提供し、実りある進路決定に導くよう努めている。

2. 学習方法

- (1)研究そのものは個人研究の形をとるが、学問分野ごとにグループを6つに分け、それぞれに担当教員1名が指導した。
- (2)各自の希望進路に応じた、フィールドワーク先を選定し、各自で申し込みを行い、訪問した。
- (3)事前事後学習及びフィールドワークで学習してきたことをもとに、スピーチを行った。
- (4)卒業論文（研究集録）をまとめた。

年間計画

回	日時	授業内容
1	4月10日	概要説明・アンケート

3. 授業内容

高校3年生の場合は、「生き方を探るⅡ」というテーマであるため、個人研究という形を取る。また、他学年では例年11月ごろに行っているフィールドワークを大学受験等に配慮して5月下旬頃に行っている。高校3年生は、これまでにフィールドワークの経験の蓄積があるため、比較的短い準備期間で対応できている。高校3年生ということで、年内にはほぼすべての学習プログラムを終えるという点が特徴である。高校3年生の研究集録は、3年間ないし6年間の総合人間科の総まとめとして、卒業論文という位置づけを持っている。

フィールドワーク先は、自分が進学を希望している大学の先生であったり、自分が将来就きたいと思っている職業の方であったりと様々ではあるが、自分の進路選択に関わりのある訪問先を選ぶという点では全員が共通している。

また、ただ訪問して満足するのではなく、スピーチや研究集録（卒業論文）の形式で学んできたことを他の生徒に発表することにより、自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成もはかった。

高校3年生の総合人間科は、個人研究ではあるものの、学年の生徒を学問分野ごとにグループに分け、そのグループを中心にして活動を進めていく。学問分野ごとに分けることで、生徒同士が専門的な視点から意見交換しやすくなるため、協同学習の効果をより高めることにつながっている。グループ分けとしては、①人文科学・音楽、②理学・農水・美術、③工学、④医歯薬・心理、⑤教員・体育、⑥社会科学、という形で行った。

2	4月19日	進路希望系統別グループ発足
3	4月26日	フィールドワーク先検討 アポ取り、依頼状・行程表作成
4	5月10日	
5	5月17日	
6	5月24日	フィールドワーク先発表会
7	5月31日	フィールドワーク
8	6月7日	お礼状書き、フィールドワーク報告会準備
9	6月28日	フィールドワーク報告会：グループ内
10	7月5日	卒業論文（研究集録）ガイダンス
11	8月30日	スピーチ原稿・卒業論文（研究集録）原稿執筆①
12	9月27日	スピーチ原稿・卒業論文（研究集録）原稿執筆②
13	10月25日	グループ内スピーチ
14	11月8日	学年全体でのスピーチ
15	12月6日	卒業論文（研究集録）原稿完成
16	1月10日	まとめ（アンケート記入）

次に、グループ別のフィールドワーク先の一例を紹介する。

(1)人文楽科 Team HA☆BA（人文科学音楽系統）

担当教員：加藤

リトルワールド
名古屋市立守山図書館
名古屋大学大学院文学研究科
京都府立大学文学部
南山大学外国語学部
ZIP-FM
国際協力機構（JICA）中部国際センター
名古屋市博物館
テレビシティ

名古屋大学大学院情報科学研究科
名古屋大学大学院工学研究科
名古屋大学大学院理学研究科
名古屋大学大学院環境学研究科
名古屋市立大学大学院芸術工学研究科
名古屋工業大学
HAL

(4)トップハイレベル医心（医歯薬心理技能系統）

担当教員：鈴木

名古屋大学大学院医学系研究科
名古屋大学医学部附属病院
名古屋市立大学薬学部
南山大学人文学部
中京大学心理学部
愛知淑徳大学心理学部
ラクオリア製薬
アイズスタイル
名古屋第二赤十字病院

(2)西川の方程式（理学農水美術系統）

担当教員：西川

名古屋大学大学院理学研究科
名古屋大学大学院多元数理科学研究科
名古屋大学大学院生命農学研究科
名古屋大学情報文化学部
岐阜大学応用生物科学部
愛知県立芸術大学
名古屋市環境局
名古屋地方気象台
名古屋芸術大学

(5)ヒューマンサポーターズ（教員体育食保系統）

担当教員：大林

愛知教育大学
中京大学入試センター
名古屋短期大学
名古屋グランパスエイト
名古屋市立香流小学校
名古屋市立東山小学校

(3)チーム ドラえもん（工学系統）

担当教員：浅井

愛知大学

(6)社会の窓 (社会科学系統)

担当教員：佐藤

中京大学経営学部
中京大学法学部
名古屋大学留学生センター
名古屋大学大学院経済学研究科
名古屋大学大学院法学研究科
名古屋大学情報文化学部
中部大学
千種警察署
名古屋家庭裁判所

いずれのグループも、自分が進学を希望する大学への訪問が多いが、それ以外の企業や団体への訪問も行うことができた。

フィールドワークが終わった後、生徒達はそれぞれのグループで報告会 (スピーチ) を行った。グループは、クラスや出席番号とは関係なく、学問分野別になっているため、この報告会でお互いの学習内容を交流させ、友人の報告内容から新たな刺激を受けることで、さらに研究内容を深めるきっかけを与えるように努めている。

次に、各グループごとに、卒業論文 (研究集録) の題目の一部を紹介しておく。例年、総合人間科の研究集録は、その年の総合人間科で学習した内容をまとめるというものになっているが、高校3年生の場合は、単年度分のまとめでもよいし、過去3年間乃至6年間を総合的に振り返ってまとめるもよいことにしている。結果的に、自分史的な内容を書く生徒もいるが、これも容認した。

(1)人文楽科 Team HA☆BA (人文科学音楽系統)

染織の文化を学ぶ
「美しい日本語」について
歴史を学ぶ理由
私と音楽
総人での3年間
生き方を探る事についての寓話
言語の魅力の気付き方
語りすと -catalyst-
好きだからじまる夢
6年間の軌跡

(2)西川の方程式 (理学農水美術系統)

化学の可能性
Truth,Harmony&Beauty
獣医師と野生動物の保護について
彫刻家になる。
再生医療
自分
なりたい自分になるために
カーボンナノチューブ
これまでこれから
大学へ向けて

(3)チーム ドラえもん (工学系統)

音楽と私
人を幸せにするデザイン
6年間の総人を通して
自分の人生を振り返って
遺伝子の発生について
集積回路技術について
情報工学へいくには
持続可能な世界へ向けた提言
土木と交通
僕と名大附と機械工学

(4)トップハイレベル医心 (医歯薬心理技能系統)

医療への関わり方
人間探求
わたしと薬学
十八才の自分
臨床心理学
言語聴覚士
仕事とコミュニケーション
総合人間科を振り返って
グローバルに教育を考える
「人と関わる」ということ

(5)ヒューマンサポーターズ (教員体育食保系統)

「スポーツ」と「夢」
夢までの道
「ありがとう」名大附
野球と夢
私の将来の夢～究極の給食委員!!～
未来への選択
今までとこれから～future planning～

つれづれなるままに・・・
6年間の総人を通して
大切な場所、叶えたい夢

(6)社会の窓（社会科学系統）

地方自治について
3年を通じて得たもの
自分史
Trans-Pacific Partnership
ゲーム理論 - the theory of games -
社会学を学ぶ
経営戦略 ～衰退する日本企業～
魔の実験校 名大附冒険記!!
メディアと大衆
経済学

4. 生徒からの意見や感想

ここでは、総合人間科での学びに関連して、生徒から寄せられた意見や感想を紹介する。

(1)進路選択にあたり、総合人間科の活動で役立ったものがあれば書いて下さい。3年生の活動に限りません。

- ・3年でのフィールドワークはすごく自分の進路選択に大きな影響を与えてくれたと思います。話をきいて将来やりたいことが定まったし、やりたいことがある大学を見つけることができました。
- ・隣接する分野を調べた人の発表をきけたことで、自分で調べきれなかったことを知ることができ、将来の職業や大学でとれる資格について考える参考になった。
- ・決して、勉強ができるだけでは社会には出ていくことができないことを学ぶことができた。
- ・中1のときの「生き方を探る」で、将来なりたいたいものについて調べたこと。12、3才のころから「将来」について考え始めたことで、6年間を有意義に過ごすことができた。
- ・総合人間科の授業では、ポスターセッションや集録など、自分の創造的スキルを磨くのに非常に役立ったと思う。
- ・進路には関係ないけれど、様々な分野について6年間の総人を通して知ることができたので、自分の視野が広がったと思う。
- ・3年間のすべての活動が役に立ったと思う。1年のときからエネルギーと自然環境を探究したことによって自分のやってみたことがはっきりとし、それにもとづいた進路選択ができた。

(2)総合人間科について後輩にメッセージがあれば書いて

下さい。

- ・周りの目は気にせず、本当に自分の調べたいもの、やりたい事について研究して下さい。そのためにも、先生方は、総人の利点などを伝えてあげてほしいです。
- ・「めんどくさい」と思わずに、真剣に取り組んでみて下さい。きっと自分の進む道が見えます。
- ・疑問を持つということが大切で、疑問を持つにもまずは歴史を知らねばなりません。こういうのはあまりないチャンスなので、勉強しましょう。
- ・総合人間科は時間も手間もかかって大変だし、めんどろだと思える人もいますが、名大附にいる間は気付かなくても、名大附の外に出てみると、それがどれほど強いアイデンティティか気付かされ、同時にとても頼もしく思うときがきます。
- ・楽なテーマにしようというって、適当にやっていると得るものがあまりないです。
- ・名大附属特有のもので、とても貴重な経験をもたらし機会をくれる時間。無駄な時間などと思っている人がいるならそれは間違いだと思う。

5. 成果と課題

高校3年生の総合人間科の成果として最大のものは、進路選択において、生徒が主体的な姿勢を身につけるひとつのきっかけとなっている点にある。ある職業なり、学問分野なりに対して、漠然としたイメージだけで考えて選択していくのではなく、その分野の専門家のもとを訪問してお話を伺うことで、自分にとってその進路選択が本当に正しいものであるのかを検証することができる。また、一人で調べて終わりではなく、周囲に発表する機会を設けることで、同年代の生徒間で視野を広げることできる。

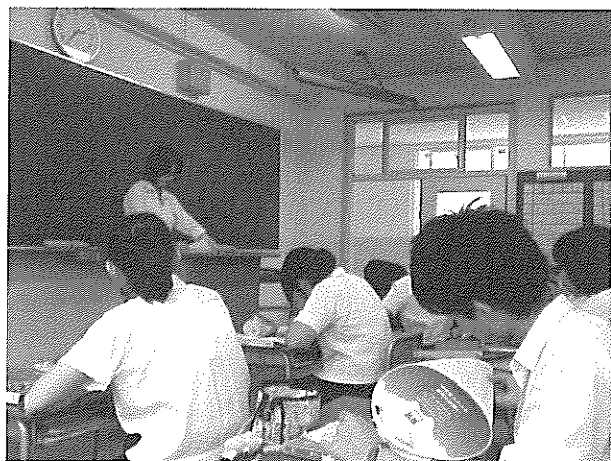
最終回に行ったアンケートでは、卒業を目前に控えた生徒達から、「自分の志望大学の先生から話を聞くことで、受験勉強へのモチベーションが上がった」「6年間の総合人間科を通して、自分は何がしたいのかを考えてきた結果、高3になって進路に悩むことがなかった」「総合人間科への取り組み方次第で名大附での生活の質が変わる」などの意見が寄せられた。また、大学に進学した卒業生達も、総合人間科が大学での学びにとっても役に立っていると述べたり、大学の先生方から、附属の卒業生は優秀であるとお褒めの言葉をいただいたりすることも多く、我々教職員が誇りとするところである。

本書でも紹介しているように、名大附属には、様々な特徴的な教育プログラムが用意されているが、総合人間科は中でも、生徒達の好評度が高く、本校の教育の重要な柱になっているということは間違いのない。

その一方で、卒業論文（研究集録）のまとめ方が今後の課題である。大学進学後に必要とされる、レポート・

論文等を書く力も付けさせるために、研究集録執筆の際の指導は重要であるが、十分に指導を仕切れておらず、フィールドワークで聞いてきたことをただそのまま書いただけだったり、本を丸写ししたりしているものも散見する。それらを踏まえて、執筆者が自身の見解を述べなければ、レポート・論文にはならないことを、すべての生徒に対してしっかりと指導することで、大学進学後の学びにも活かせるようにしていくことが目下の課題といえる。その一助として、文献引用の方法を指導するためのプリントを作成し、ここ数年、使用している。次頁に掲載するので、他学年での指導の際などにも活用してもらえればと思う。

(文責・加藤直志)



フィールドワーク報告会の様子

他の誰かが書いた本やホームページに書いてあったことを、自分の研究集録やレポートなどに引用する場合は、次のような方法をとってください。

私は、人間の脳について、調べてみた。例えば、川島隆太は、次のように述べている。

脳は、考えるだけでなく、喜びや悲しみ、楽しさや怒りを作り出すこともしています。眠気を催すのも食欲を感じるのも脳ですし、内臓をはたらかせたり、手足の動きをコントロールしたりしているのも脳です。わたしたち人間は、生きるうえで必要なことの多くを脳の指令によって行っているのです。(注1)

このことから、脳がなければ、人間は生きていけないということは明らかである。そこで、私は、人間の脳の重要性を知るために、脳科学者の〇〇教授の研究室を訪問することにした。……

参考文献 (引用文献)

(注1) 川島隆太「脳のはたらきを目でみてみよう」、三角洋一・相澤秀夫ほか編『新編 新しい国語 1』東京書籍、2009

私は、人間の脳について、調べてみた。「脳は、考えるだけでなく、喜びや悲しみ、楽しさや怒りを作り出すこともしています。」(注1)という研究成果があることがわかった。ということは、脳がなければ、人間は生きていけないということは明らかである。そこで、私は、人間の脳の重要性を知るために、脳科学者の〇〇教授の研究室を訪問することにした。……

参考文献 (引用文献)

(注1) 川島隆太「脳のはたらきを目でみてみよう」、三角洋一・相澤秀夫ほか編『新編 新しい国語 1』東京書籍、2009

引用元が、ホームページの場合は、次のように書いてください。

(注1) 名古屋大学教育学部附属中・高等学校 (<http://highschleduca.nagoya-u.ac.jp/>)、2010年11月24日閲覧

※要するに、自分で考えて書いたことと、本に書いてあったことや人から聞いたことが明確に区別できるように書く必要があるのです。

※他の人が書いた本などから、引用する場合、このようなルールを守って引用しないと、「盗作」^{ひようせつ}「剽窃」になります！これは許されない行為です。

※引用を示す方法は、ほかにもあります。よくわからない場合は、先生に聞いてみよう。